那須岳の火山活動解説資料（平成 29 年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２、図３－①②、図５－①）

湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約５㎞）による観測では、茶臼岳の噴気は少ない状態で、噴気の高さは火口上概ね 200m以下で経過しています。

26 日に栃木県消防防災航空隊の協力により実施した上空からの観測では、茶臼岳の西斜面の 38 火口、北西斜面、南西に位置する牛ヶ首付近で、従来から観測されている弱い噴気を確認しました。その他の場所からは、噴気は確認されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図３－③、図４、図５－②）

今期間、火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

・地殻変動の状況（図５－③～⑤、図６）

GNSS[1] 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

１）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月分）は平成 29 年 12 月８日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000（行政界・海岸線)』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

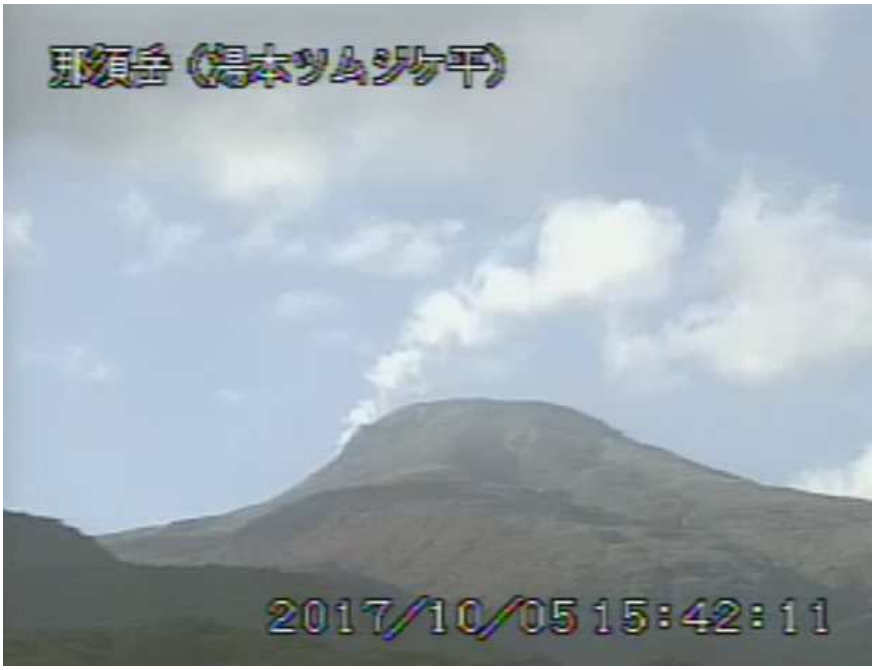


図１　那須岳　茶臼岳の状況（10 月５日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

図２　那須岳　茶臼岳西斜面の噴気の様子

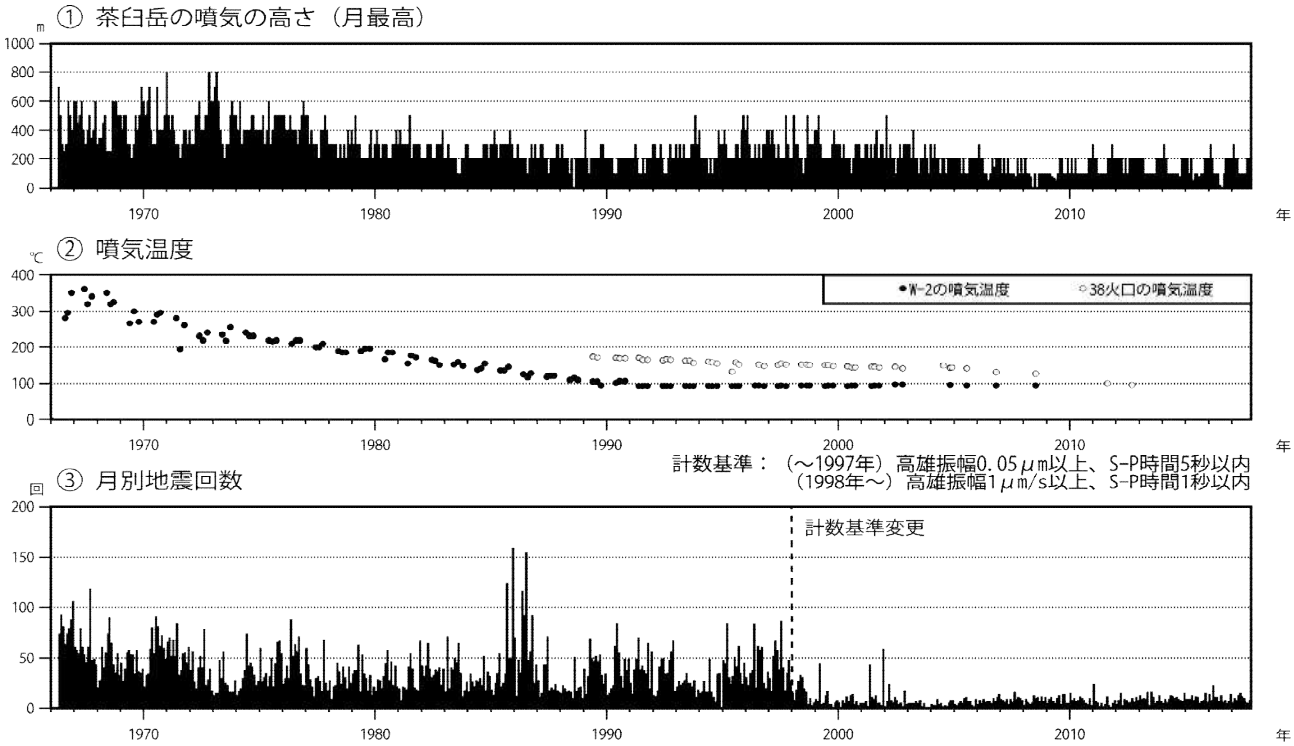
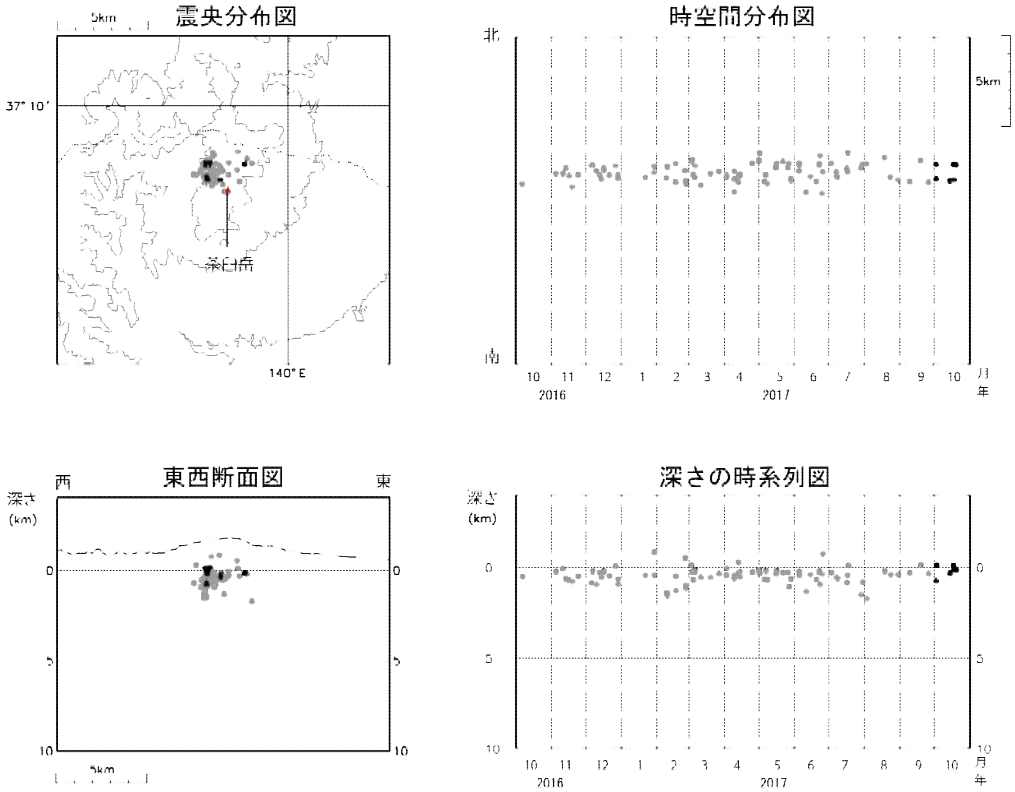


図３　那須岳　火山活動経過図（1966 年１月～2017 年 10 月）

① 定時観測（09 時・15 時）による月最大値

② 噴気温度、W-2 及び 38 火口はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点

③ 月別地震回数（～1997 年：那須岳周辺の地震を含む、1998 年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）



●：2016 年 10 月１日～2017 年９月 30 日　●：2017 年 10 月１日～10 月 31 日

図４　那須岳　震源分布図（2016 年 10 月１日～2017 年 10 月 31 日）

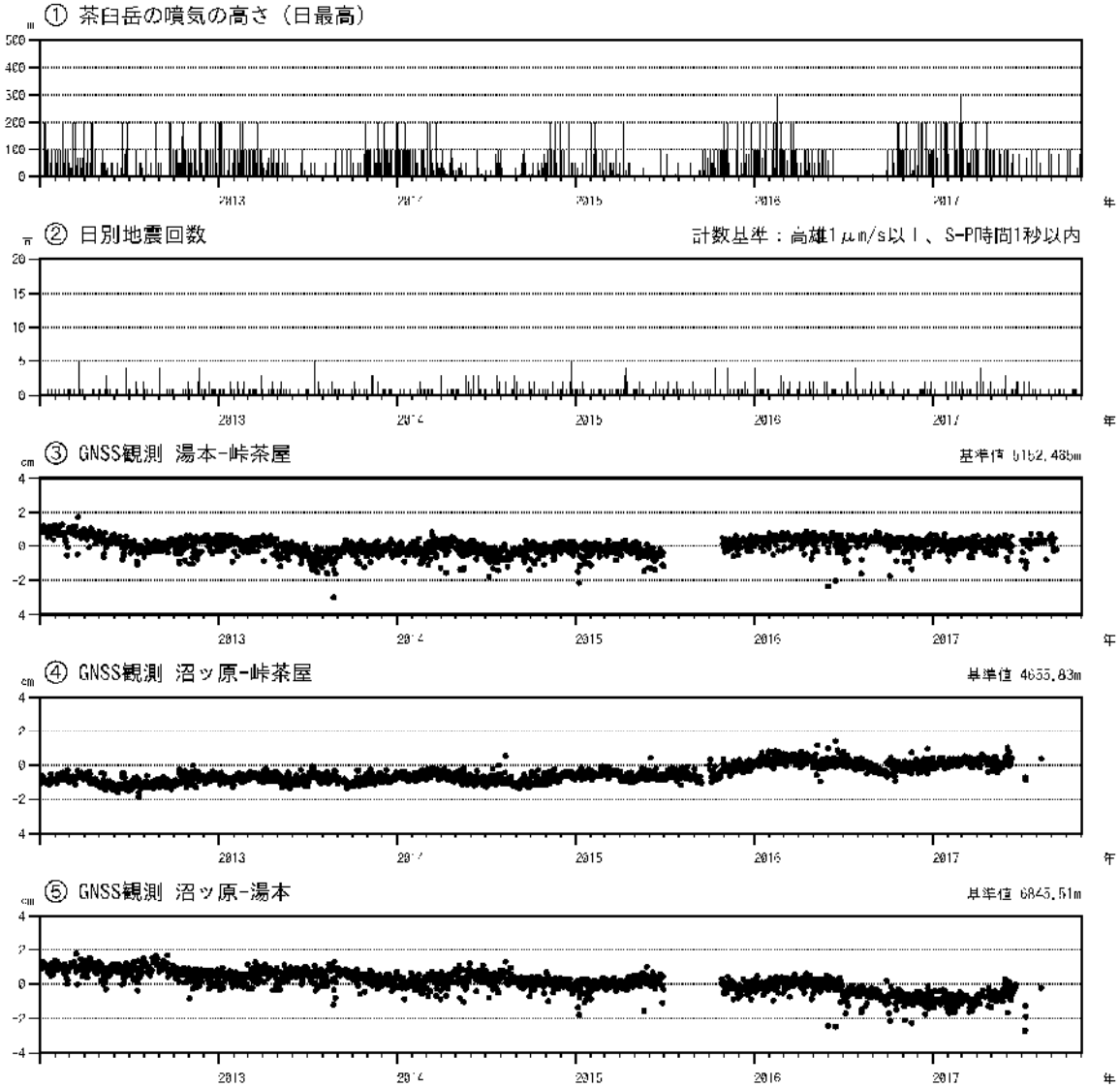


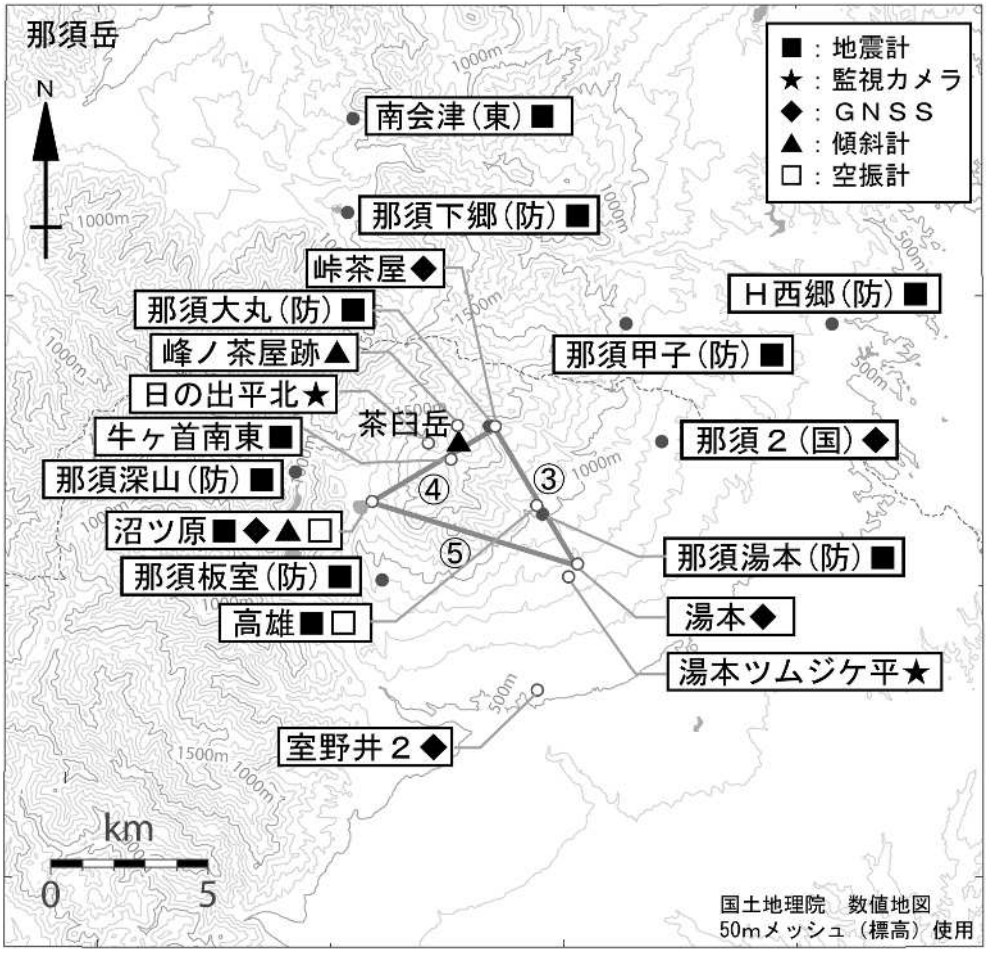
図５　那須岳　火山活動経過図（2012 年１月１日～2017 年 10 月 31 日）

①　定時観測（09 時・15 時）による日最大値

2016 年６～９月は視界不良の日が多く、噴気の高さがほとんど表示されていませんが、定時以外の臨時観測では概ね 200m以下の噴気を確認しています。

③～⑤　GNSS 連続観測による基線長変化

- **電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。**
- **基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。**
- **③～⑤は図６の GNSS 基線③～⑤に対応しています。グラフの空白部分は観測点の障害によるものです。**
- **2017 年 10 月は沼ッ原、峠茶屋各観測点の障害により、基線長のデータがありません。**



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（東）：東北大学

図６　那須岳　観測点配置図

・GNSS 基線③～⑤は図５の③～⑤に対応しています。